

令和8年度 調布市立緑ヶ丘小学校 学校経営計画（学校長 大原 年博）

学校の教育目標

○正しくきまりを守る子 ◎よく考え進んでやりぬく子 ○明るい心とじょうぶな体の子 （◎＝今年度の重点）

「愉しく、成長できる学校」(Chance Challenge Change)

○児童一人一人が生き生きと活動する学校 ○安全・安心な学校 ○地域や保護者に信頼される学校

ビジョンの設定理由
(本校の現状と課題)

変化の激しい社会を生きる子供たちにとって、自ら考え行動する「主体性」を育むことが重要だと考える。そのためには、子供たちが安心して過ごし、「やってみたい」「自分たちでやりたい」と感じられる環境づくりが不可欠である。また、自分の役割や活躍の場を通して、「自分にはできることがある」「誰かの役に立てる」と実感することが、さらなる成長への意欲につながると捉えている。今年度は「学校の居心地向上プロジェクト」を東京都医学総合研究所と協同で実施し、子供たち自身で学校を創り上げる意識を醸成していく。

以上の理由から、本校は「愉しく、成長できる学校」を学校像として設定し、子供たちが自らの成長を実感し、主体的に学校生活を創り上げていく姿の実現を目指す。

中期的な経営目標

- ① 【最大の教育環境は教師】 * 偏見や差別を許さない人権感覚の醸成 * 児童相互の良好な人間関係の形成と自他を尊重する態度の育成
 - ② 【授業改善を通じた学力向上】 * 学習指導要領の理念の実現を目指した授業改善 * 「主体的・対話的で深い学びの実装」に向けての授業改善
 - ③ 【家庭と連携した生活習慣の確立】 * よりよい生活習慣の確立 * 家庭学習の充実による学力の定着・深化及び体力づくり関連の取組の改善による運動習慣の定着
 - ④ 特色ある教育活動 * 地域の福祉施設、保育園等との交流活動の推進 * 「ふれあい交流」事業 * 第八中学校・白百合女子大学との連携強化を図る。
 - ⑤ 特別支援教育の充実 * 通級拠点校のメリットを生かし、通常学級との連携で相乗効果を促す。
 - ⑥ ICT を活用した教育活動の充実 * 一人1台端末のメリットを生かし、効果的活用を推進する。
- 人・組 ・校務分掌の計画的推進 ・組織力の向上 ・若手教員、ミドルリーダーの育成

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①あいさつ、言葉遣いに関する指導を徹底する。「信頼貯金」を積み重ねることで、思いやりの心と自己肯定感を育成する。	①校内研究、OJT を通し「主体的で探究的な学びの実現」に向けての授業改善に取り組む。	①運動に親しむことを目的とした「ちょこプラ1」を推進するとともに、運動量を確保した体育授業を工夫する。
②いじめ防止に向けた日常的な指導を行うとともに、いじめ防止アンケート緑ヶ丘 ver.を実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。	②年間7回の授業研究を通し、各学年段階で育成すべき力を共通理解し各教科・領域に反映させる。	②体を動かす機会を意図的に設け、その実施を通して中休み等を活用するなどの日常的な運動の取組の充実を図る。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①保護者アンケート「学校は児童の望ましい関係づくりのための指導や取り組みをしている」肯定的回答90%以上。	①保護者アンケート「学校は、基礎・基本の定着等、児童にわかりやすい指導をしている」肯定的回答90%以上。	①「ちょこプラ1の取組」学年実施率100%
②保護者アンケート「児童は学校で楽しく学校生活を過ごしている」肯定的回答95%以上。児童アンケート「居心地」得点総計80%以上。	②保護者アンケート「学校は児童に自分の考えをもたせたり、表現させたりする指導をしている」肯定的回答90%以上。	②保護者アンケート「普段から運動に親しんでいる」と回答する児童の割合が90%以上。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 地域との連携	5 特別支援教育の充実	6 端末を活用した教育活動の充実
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①児童が地域の福祉施設・高齢者施設・保育園・幼稚園を訪問し、授業で学習した内容を発表するなどして交流する。	①校内研究に通級指導チームが参加する形で講師を招聘し授業研究を全校で行う。	①ICT 推進委員会にタブレット使用にかかるリテラシー計画を策定させるとともに、各学級で実践させる。
②校内でお年寄りと給食を食べ交流する機会を全児童が体験する。	②2週に一度程度担任の授業を通級担当者が参観し、情報を交換することで指導方針や指導観を共有し指導に役立てる。	②日々の学習指導を踏まえた自己評価や家庭学習への活用等1人1台タブレットの有意な活用法について研究・実践する。
③白百合女子大学生ボランティアを活用する。		
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①②③保護者アンケート「学校は地域の環境、文化、自然、外部の人材を生かした指導をしている」肯定的回答90%以上。	①年間を通じた通級教員の校内研究への参加及び授業提案を行う。	①ICT 担当委員会より活用法について提案させ、各学級の実践を報告させる。
	②通級指導にかかるアンケートによる保護者の満足度90%以上	②「普段からタブレットに親しんでいる」と回答する児童の割合が80%以上。

人材育成・組織運営

- ① 学校運営に際しての各職層における資質・能力を向上させるため、再構成した校務分掌ラインを活用し、業務の遂行に伴う上位職層による補完状況を随時確認するとともに、必要に応じて業務の調整、指導助言等を行うことをねらう。
- ② 月1回運営委員会を実施し、主幹・主任を通じた学校経営上の課題の発見と共有、校務分掌等の進捗状況の確認、及び指導、助言の実施を促す。
- ③ 主任教諭の学校運営の意識がより高まるよう、OJT 研修の充実を図る。(若手教員育成・主任教諭の職責の自覚、育成)